



# べふっ子の共育

～学校だより・つなぐ2月号 巻頭言として～

令和6年2月3日(月)

発行: 摂津市立別府小学校  
校長 田中 健一郎

先日の音楽参観日では、たくさんの保護者様にご来校いただきましてありがとうございました。参観日の冒頭でもお伝えしたのですが、音楽を作り上げるという一つの目標に向かって、真剣に、そしていきいきと取り組むべふっ子たちを見て私はとてもとても感動しました。

恥ずかしながら、このところ目の前の仕事や対応に追われる日々で、子どもたちの姿をしっかりと見ることができていなかったと振り返るとともに、私が育てたい子どもたちの姿とは、やはりこうして一人一人が自分のできる精一杯を発揮できる子どもたち、前を向いてがんばることのできる子どもたちであると、あらためて思いました。一生懸命に取り組む姿がとても尊かった。子どもたちの歌声や演奏が心にズンズンと響きました。

2月に入り次の年度、学年に向けての準備を進める時期となりました。

振り返ると「誰もが楽しく幸せに6年間を過ごせる別府小学校～全ての子どもに居場所がある学校づくり～」と学校教育目標を一新して、学校・保護者・地域とともに同じゴールを目指して子どもたちを育てていきたい、と新たな希望を持って始めた一年でした。

しかし、現在、全ての子どもたちが安心できる学校になっているのか？楽しく幸せに過ごすことができるのか？と言えば、まだまだそうなり得ていない解決すべき課題の多い現状があります。

ここをどうしていくのかを今考えなければ、この目標もただのお飾りの言葉だけとなってしまいます。校長としてずっと考え続けている問題ではありますが、正直なところ、私だけではどうも解決できません。

「どんな学校にしていきたいか？」職員会議の中で教職員に聞きました。先生たちからは次のような意見が出されました。

「一人ひとりが安心して通える学校にしたい。頑張りたいと思えることが見つかる学校にしたい。」

「子どもたちも教員も安心できる場所になれば良いと思う。」

「朝起きて行こうと思える学校にしたい。」

「子どもたちも教職員も居心地が良いと思える場所になってほしい。」

「子どもたちも教員も同じ方向に向かって頑張れる学校。」

「先手を打って色々なことに取り組める雰囲気・環境のある学校。」

「安心して働ける環境が必要で、安心があるからこそチャレンジができ、子どもたちにより向き合えることができると思う。」

「安心して勉強ができたり、信頼できる人がいる学校であればみんなが楽しいと思います。」

先生たちの意見の中で多く出てきた言葉は「安心」。裏を返せば、「安心」が今の別府小には足りないということを表していると思いました。我々教職員も不安を抱えている。では、この「安心」を得るためにはどうすれば良いのか？

また、次の質問として「そのような学校にしていきたいにも、始めたいこと、または、やめたいことは？」ということも聞きました。

「一人一人が持つ目指す学校教育目標のイメージをもっともっと話をして同じ基準を持つ。」

「行事等を精選して、教職員が子どもたちと向き合える時間を確保する。」

「オンラインではなく対面でのコミュニケーションをもっと大切にする。」  
「コロナで無くなったものを復活させた結果だと思う。できないことをやるべきではない。」  
「8時30分までの前庭待機をなくし、朝の準備が終わった子からグラウンドで遊べるようにしたい。」  
「一人で抱えることがないように、様々なことを情報共有できる。」  
「子どもたちには学年を超えたつながりを持たせたい。」  
「クラスより学年、学校を意識した取り組みを。」  
「学校として取り組む柱を一つに決めて取り組む。」  
「子どものことを共有する機会をもっと。」・・・と言った意見があがりました。

先生たちの意見を聞きながら、我々が「安心」を得るためには、「関わる人たちが同じ基準を持つ」「拠り所となるものを持つ」「時間を作る」「情報を共有する」「取り組むことを減らし全員で取り組む」そして何よりも「話をする」と言ったことが必要かと感じました。子どもたちのそばにいる我々大人がこうした振り返りを通して、自分たちの行動を変えていかなければ子どもたちもずっと変わらないままであろうと思います。実際に何から実行していくのか。限られた残りの時間の中で決めていく必要があります。

そして、これは私たち学校だけ、教職員だけの問題では決してない。もっともっと「安心」を得たいと感じているのは保護者の大人たち。我が子が安心して学校に通えること、安全な環境を求めていること。たくさんの保護者と話をする中で、当たり前だがそれらが一番求められ、そして今の別府小ではそれが実現できていないことがわかりました。

学校の、教職員の考えていることを保護者に伝えるために発信するというのも、これまでの別府小はほとんどできていなかったと思います。だから、保護者は学校のことが、先生たちが何を考えているかわからなくて、子どもから聞く情報だけで不安を募らせてしまっていたのですね。ケンカやケガやトラブルの時にはもちろん学校から連絡をするように全ての教職員が意識してはいますが、それだけではなく普段から学校がどのようにしたいのか、どのように考えているのかを保護者や地域に伝えていくことが、関わる大人たち皆の安心を生み、結果子どもたちにも落ち着いた環境を与えていくことができることを、今一度しっかりと心に留めたいと思います。

あらためて「誰もが楽しく幸せに6年間を過ごせる別府小学校 ～全ての子どもに居場所がある学校づくり～」と言うめざす学校像を目標に取り組んでいきたいと思います。どうしたらそのような学校がつけられるのか、対話の機会を生みだしながらまずは我々教職員で考えたいと思います。

そして保護者の皆様にも伝える努力をしていきます。どうぞ皆様の力を貸してください。学校も保護者も望むことはきっと同じ、子どもたちが毎日楽しく幸せに学校に通うこと。我々大人一人ひとりが少し勇気を持ってこれまでと違うアクションを起こすことで、何かを変える大きな力になるはずだと信じています。

